

# 検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2009年10月21日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合)【No.58】

## 驚くべき革マルの違法活動の能力！JR連合会長も被害受ける！

まず、前号で紹介した1998年10月13日の朝日新聞(朝刊)記事の続きを紹介したい。

革マル派 JR連合系労組も狙う？ 幹部宅侵入・盗聴の疑い

-(前略)- 調べでは、カセットテープにはJR連合系労組幹部の電話のやりとりや室内の様子が録音されており、ビデオテープには幹部宅の室内の様子が写っていた。自宅などに侵入して書き写したとみられる労組の内部資料も見つかったという。公安部は、革マル派が国労だけでなく、JRをめぐり労働運動に強い関心を寄せ、情報収集をしていたとみている。

そして、警察の捜査により、侵入事件の真相が解明され、翌年には革マル派の非公然活動家が逮捕された。1999年7月8日の毎日新聞(夕刊)には次の記事が掲載された。

「革マル」活動家侵入容疑で逮捕 JR西労組幹部宅

JR西日本労組の幹部宅に侵入したとして、警視庁公安部は8日、過激派「革マル派」の非公然活動家で東京都、H容疑者を住居侵入容疑で逮捕、同派非公然活動家のO、A両容疑者を同容疑で全国に指名手配した。調べでは3容疑者は1996年11月中旬ごろ、仲間数人と労組の資料などを勝手にコピーする目的で、当時、JR西日本労組委員長だった矢後希悦さん(61)の兵庫県尼崎市の自宅に合いかぎで数回にわたり侵入した疑い。同労組の住所録や会議録など数百枚をコピーしていた。矢後さんは91年から6年間、JR西日本労組委員長を、92年から1年間、JR連合の初代会長を務めた。(注:記事中の「JR西日本労組」は「JR西労組」の誤り)

### 本人もまったく気付かない巧妙な革マルの違法行為の手口！

警察は革マル派非公然アジトの摘発、捜索によって事件の存在を知り、矢後氏に連絡した。そして、大量に押収された預金通帳や手帳のコピーなどの資料を現物と照合した結果、本物であることが判明したというのだ。革マル派非公然活動家は、矢後氏が出張不在中に、複数回、合鍵を使って悠然と屋内に立ち入り、書類をくまなくコピーしたうえ、侵入前と同じ状態にして立ち去った。矢後氏本人は、彼らに侵入されたことについて、警察に指摘されるまでまったく気付かなかったというから驚きだ。

このほか、先に示した「JR東労組と対立関係にあった労組幹部宅に対する電話盗聴事件」(No.56)とは、1995年12月に東労組の非民主的な組織運営に反発し、旧鉄労系の組合員が新潟地区を中心に集団脱退してJR連合系の「JRグリーンユニオン」(現・JR東日本ユニオン)を結成した際に、鉄労の清算組織「鉄労友愛会議」のS議長宅を、革マル派の非公然部隊が盗聴したという事件。西岡研介著「マンガローブ」に詳細が記載されている(p.211)。オウム真理教対策で警戒中、警視庁が深夜、男女3人が乗車し路上に長時間停まっていた自動車を不審に思い調べたところ、車内の盗聴道具や電線に仕掛けられた盗聴用発信機が見つかり、電話線を辿ったところ、S氏自宅の盗聴が発覚したという。

住居侵入や電話盗聴など、違法行為を巧妙に、平然と敢行する革マル派の高度な能力には驚くばかりだ。そして、彼らの違法行為の対象はJRに向けられている。わが国の治安問題として、そのような反社会集団の存在を許してはならないのは当然だ。改めて、JRへの革マル浸透問題の危険性、重要性を再認識する必要がある。さらに検証を進めたい。